

## 人生の山頂を目指すならここしかない

念願の大学生となり、充実した大学生活や私生活を期待していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業の大半がオンラインとなり大学に足を踏み入れる機会は少なく、私生活では外出自粛で遊びに出かけることも思うようにできない日々を過ごしていました。そんな味気ない日常を変えるきっかけとなったのが首藤ゼミでした。振り返ってみると自分自身を成長させることのできた貴重な居場所だったと強く感じています。

ゼミ初回の日には初めてゼミ生と顔合わせをする日でもあったので、緊張していたことを覚えています。「そもそもゼミって何をやるのだろう」、「何だか難しそう」、とゼミに対するイメージも掴めていなかったのも、漠然とした不安がありました。しかし、実際に授業を重ねると思っていたよりも堅苦しい印象はなく、むしろちょっとした雑談をしたりと、終始和気あいあいとした雰囲気でした。個人課題から始まり、グループプレゼン、他大学との合同プレゼンと、取り組む課題がどんどんレベルアップしていくにつれて、自分自身も着実に成長していくのを感じました。そのどれもが苦勞し、思うように進まない時にはさじを投げ出した気分になりましたが、やり終えた後はやって本当に良かったと達成感に満ち溢れていました。首藤ゼミで得られたものは色々ありますが、私が一番大きな収穫だと思っているのは一緒に頑張ることのできる仲間ができたことです。最初から、全員が仲良しだったわけではなく、初めて出会った人とうまくやっていけるのか不安でした。しかし、今ではすっかり気の置けない仲になり、離れ離れになるのが寂しいと感じています。

それぞれの能力と持ち味を発揮しながらお互いに刺激し合うことで、新しい活力や創造力が生まれていくと思います。そうした多様な人たちが切磋琢磨する環境の中で、「エース」や「期待の新エース」、「山の民」など様々な称号や思い出が生まれました。ゼミの仲間とは時には笑い合い、時には競い合い、時には励まし合う、かけがえのない仲間であり、こうした出会いが人を成長させてくれると私は思います。

いま取り組んでいる、またはやろうとしていることが、時間の無駄だと感じたり、他人から「何の役に立つのか」と問われたりするかもしれません。しかし、知識や経験はどこかで互いと繋がりあい、世界を広げてくれるはずです。私は何回も失敗を繰り返しましたが、それでもゼミでの2年間は想像以上の学びを収穫することが出来ました。皆さんもぜひ、全力で学びを吸収してほしいと思います。そしてその学びが、これからの生きる糧となることを願っています。

2024年3月15日  
首藤ゼミ初代山の民  
兼 第3期ゼミ長

